

無線綴じデータの制作について

無線綴じ冊子の背幅は、ページ数、用紙、斤量によって変わります。

下表より下記数式を使って算出します。

$$(\text{総ページ数} \times \text{紙厚}) \div 2$$

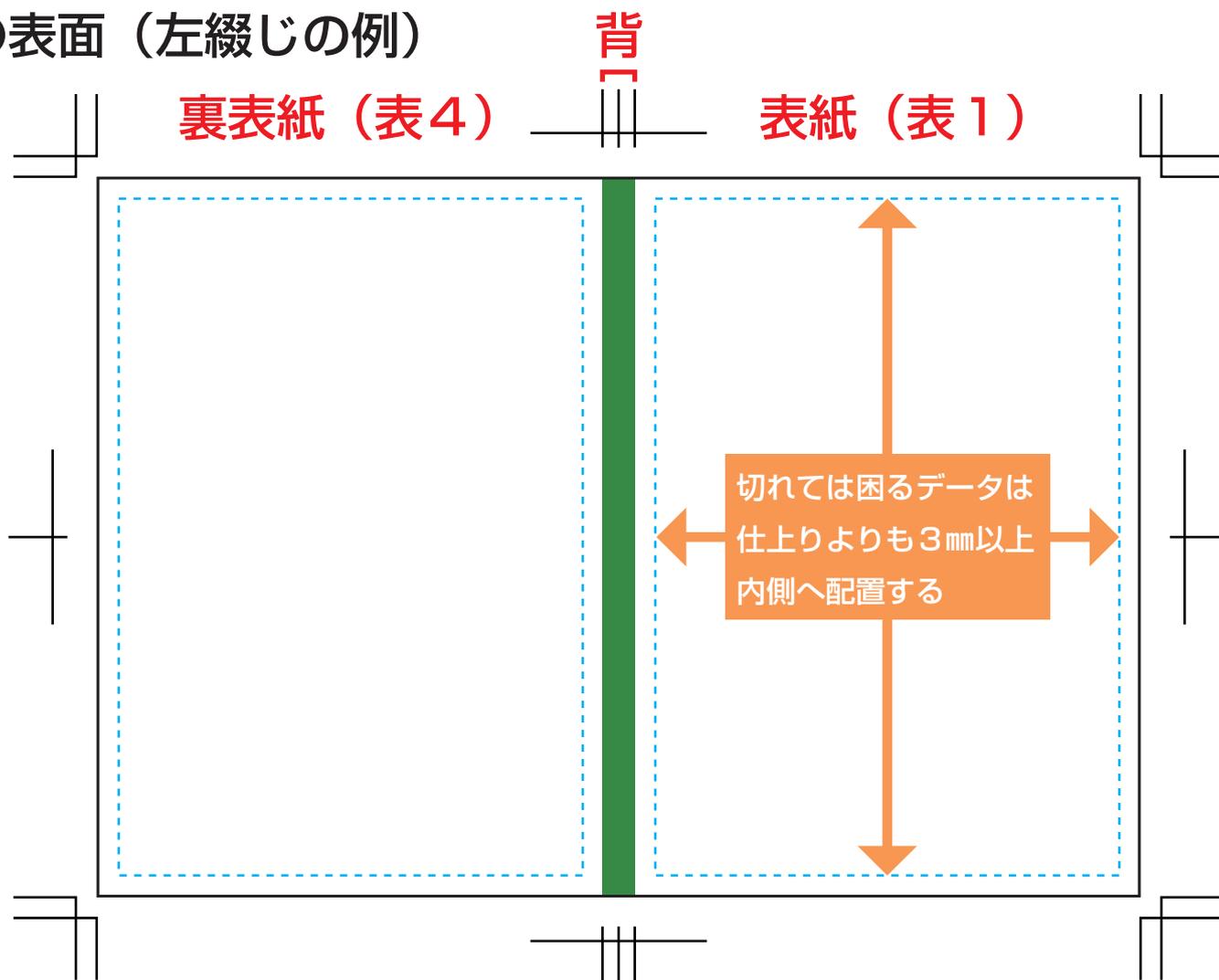
用紙	斤量 (kg)	紙厚 (mm)	用紙	斤量 (kg)	紙厚 (mm)	用紙	斤量 (kg)	紙厚 (mm)
コート紙	90	0.086	マットコート紙	70	0.078	上質紙	70	0.097
	110	0.106		90	0.108		90	0.126
	135	0.136		110	0.139		110	0.149
		135		0.181	135		0.182	

表紙部分は、本文とは別に、背を含めた見開きの状態で表面と裏面の二つのデータを制作します。表面には、「表紙 (表1)」と「裏表紙 (表4)」、「背」をつなげたサイズの見開きデータを制作し、本文と背の境目にトンボを付けます。

切れては困る文字や絵柄は仕上りよりも3mm以上内側へ配置してください。

算出された背幅はあくまで目安のため、製本時、若干のズレが生じる場合があります。そのため、「表紙」、「背」、「裏表紙」がはっきり分かれるようなデザインはご注意ください。

●表面 (左綴じの例)

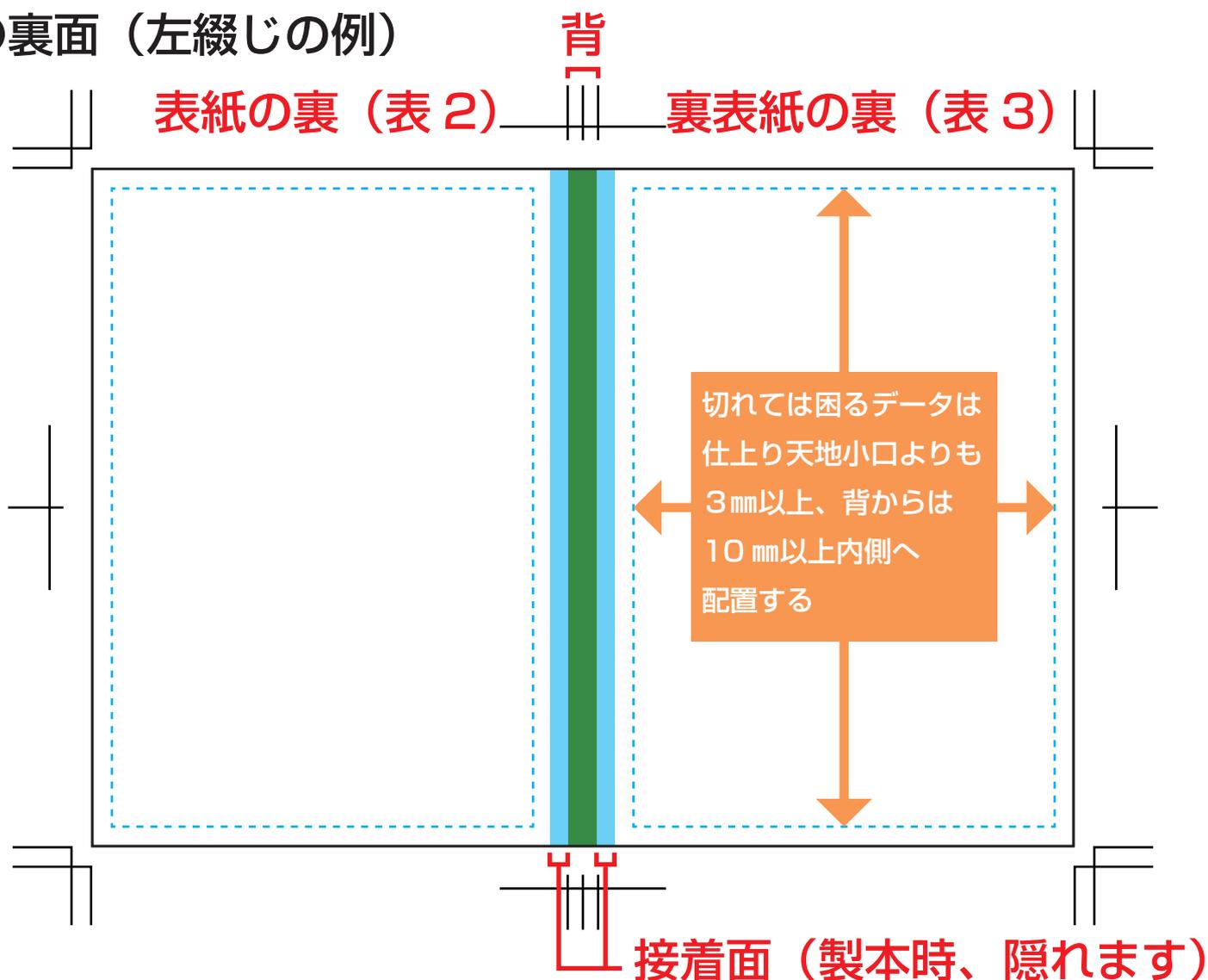


裏面も同様に「表紙の裏（表2）」と「裏表紙の裏（表3）」、「背」をつなげたサイズの見開きデータを制作し、「本文」と「背」の境目にトンボを付けます。

裏面は、本文と直接貼り合わせるため、「背」の両側に5mmの接着面が必要です。この部分に文字や絵柄がある場合、完全に隠れてしまいますのでご注意ください。

隠れたり、切れては困る文字や絵柄は、背から10mm以上内側へ配置してください。

●裏面（左綴じの例）



裏面と直接貼り合わせる本文の最初のページと最後のページも、綴じ部分（ノド）から5mmは完全に隠れます。隠れたり、切れては困る文字や絵柄は、綴じ部分よりも10mm以上内側へ配置してください。

●本文（左綴じの例）

